〝学童保育〟を実現しよう

国際婦人デー集会で確認

国際婦人デー大牟田集会

四月九日午後一時から、第十六回国際婦人デー大牟田地区集会が労働会館に約八十人の婦人を結集して開かれ、大牟田における婦人運動のもつ課題を実現するため、具体的な活動をとり組むことをきめた。（集会は、母連協と大牟田地評婦人協議会とで実行委員会をつくり、その手で開かれた）

木村ケイ実行委員長の言葉にもあったように、国際婦人デーは世界の婦人が自由と平等、婦人の権利とくらしの安定を願って共同行動に立ち上がる日である。

今年の集会は、とくに大牟田における婦人の当面している大きい課題の一つ、学童保育問題が中心に話し合われた。

それにはすでに十年余も学童保育をつづけている福岡市の経験が（委員長の多くが校長）予算を計上している関係上、運営委員会をつくっている。

六カ所は空教室を使い、三十カ所は校庭にプレハブ教室をつくって保育。五十二年度は五カ所増設の予算化が実現した。働く婦人の権利として、子供の育成を運動の中心にすえるべきではないか」

今年から学童保育が実現した筑紫野市の現状を、五島・同市市議から、さらに大牟田の現状を三川小学校の江崎教諭から報告を受けたが、終りにもっと学童保育の問題については一般の理解を広める必要があることが確認され、今後はもっぱら運動を通じてその認識を広げていこうと申し合わせた。

今今吉・福岡県評オルグから報告されたが、その内容は――

「福岡でこれがはじまったのは、働く主婦四、五人が教会に集まってスタート、核家族が進むなかで保育の要求が高まり、対市交渉を積み重ねてきた。

現在学童保育の定義がないのでむずかしいが、留守家族子供会が三十六あり、学童保育連絡協議会をつくっているが、教育委員会側

子どもと心を通わせ合いながら

主婦会本所支部　一主婦

私たち、一家の家計をあずかっている主婦にとって、二月～四月は出費がかさみ、一年のうちで一番頭の痛い時期です。

特にここ一～二年は、公共料金をはじめ物価の値上げ幅が大きく、逆に賃金は低くおさえられ、やりくりしようにもどうにもならないのが、わが家の実情です。

夫が、どんなに、たとえば少々の病気など無理をして満勤して働いても、月々の給料は八万～九万円です。

子供も高校生ともなれば、「父ちゃんの給料は今月はいくらネ」、と明細書を見たがります。

子供は何も、父ちゃんを軽べつしたり、頼りないというような気持でいっているのではないことは、私にはわかり過ぎるほどわかっていますが、「あんた達が見たって仕方がなかよ。父ちゃんに悪かよ」というのが精一ぱいです。

中学生の子供は「うちにできる親孝行は、うんと勉強して公立高校に合格するこつね」、といいます。夫は、そんなとき「頑張れよ」と笑いながら、頭をなでてやっています。

親と子はいろいろ理屈はわなくても、お互いに通じ合っていることを大切に、家族ぐるみで春闘を勝ち抜くため頑張りたい、と思っています。

× ×

コント　さようならDOG

三川支部主婦会　一主婦

夏目漱石先生宅の猫の真似よろしく、吾輩は犬であると宣言して早や七年。今朝未明吾輩は、犬であることにおさらばした。吾輩のご主人とその息子の二人で掘ってくれた穴の中で、いま思い出を手繰っている。

思い返せば早いもので、この家に世話になるようになってから七年たっている。その間ご主人は、実によくしてくれたと思う。朝夕のブラッシングも続けてくれたし、適宜な運動に雨の日にさえ連れていってくれた。

このご主人も、吾輩がこの家にきて三年目の冬、肝臓病を患って入院した。それからというものはアルコールなどの刺激物いっさいをやめて、療養につとめている。が、まだ思わしくないようで、吾輩としては一番の心配の種であったし、その意志の固さにはいささか感心している次第である。

吾輩がきた頃は、この家の息子は中学生になりたてで、うれしさのあまりからか知らないが、相撲などを挑んできて閉口させられたものだが、もう今春は高校を卒業した。

吾輩の体の具合が悪くなってからは、心配して日に何回となく小屋の中をのぞいてくれた。昨日などは、「犬のやつきつかつに、のぞくたびに、無理して尻っぽをふってごたえてくれる」と涙を流して母親に話しているのが聞えた。ドライな若者だとばかり思っていたが、しんのやさしい青年になってくれたものだと、そのときしみじみ思い知らされた。

奥さんは、福祉関係の仕事をするようになって三年になる。就職がきまった当時、吾輩は奥さんに仕事がつとまるだろうか、と心配したものだった。だがあれから三年、いまではその福祉の仕事が奥さんの生き甲斐みたいになっているから不思議だ。

やれ、手話講習だ、やれ盲人向き朗読講習だ、と大変なはりきりようであるが、やはりそれなりの悩みがあるようだ。それというのも労働者としてか、ボランティア精神に徹するかで頭を痛めているところを、ときに見かけてきたからだ。

この奥さん、吾輩にはあまりかまってくれなかった。が、声をかけたり、おやつの残り物ぐらいはくれたので、許してはやることにした。

いま吾輩の穴の上には、この家の息子が、ヘタクソだが心をこめて書いた卒塔婆が立っている。

裕福とはいえない吾輩の暮らしであったが、平凡なこの家の住人三人に囲まれてしあわせであったと心から思い、静かに眠ることにする。

上がる上がる　お米の値段

昭和二十年……二〇円
〃　三十年……七六五円
〃　四十年……一、一八〇円
〃　四十七年……一、五九〇円
〃　四十九年……二、一〇〇円
〃　五十年……二、七四〇円
〃　五十一年……二、七四〇円
（この分は指導価格）

× 右はいずれも十キログラム当り

生活

こわい副作用

多い経験者　薬23%、化粧品17%

【連合】神奈川県消費生活課はこのほど、県内の消費者モニター二百人を対象に、薬と化粧品による副作用についてのアンケート結果をまとめました。が、副作用の被害者が医薬品で三三%、化粧品で一七%もいることがわかりました。

調査によると「最近一年間に薬の副作用を経験した」人は三三%。そのうち「治療を要する程度」一七%、「かなり身体に異常があった」四四%と、比較的重い被害を訴えています。症状の種類では「発シン」が三〇%と断然多く、次いで「倦怠感」一三・九%、「腹痛」「吐き気」「めまい」「どうき」の順になっています。副作用を起こした薬の種類をみると「カゼ薬」が二八%でトップで、「抗生物質」「キズ薬」と続いています。

化粧品については「この一年間に副作用があった」と答えた人は一七%。このうち「病院へ行った」という重症が二〇%に及んでいます。症状では「顔面発シン」が三五・四%と最も多く、「眼瞼部発シン」一六・七%、「顔面発赤」一五%、「顔面浮シュ」六・三%となっています。

また、アンケート回答者からは「宣伝過剰。PRばかりに力を入れすぎている。もっと安全・品質を重視し、販売に心がけよ」などの意見が続出しています。

にぎわった文化祭

三日、四山指導部で

四山指導部文化祭での展示

四月三日、四山指導部はにぎやかに文化祭を開催。組合員・家族で同指導部はあふれんばかりだった。

まず午前中家族ぐるみのソフトボール大会、一チームは組合員六人、主婦二人、子ども一人の編成で、七チームがにぎやかな応援合戦のなかで対決。大島地域分会が優勝。福岡県外来チームと同位だったのが、ジャンケンできまったものだった。

午後は子どもの書や図画をはじめ、写真や手芸、活花に盆栽、職場新聞、記念品などの展示会。それに焼きトリやおでんコーナーなどに、きき酒大会が加わったりで一日じゅう大にぎわいだった。

その日は、故久保清さんの追悼式もあって改めて冥福を祈り、文化祭の意義は高かった。三月二十七日、すでに囲碁・将棋大会も終っていて、忘れ得ぬ行事だった。